

ようこそ 教育長室へ

教育長 高木 秀人

前回に引き続き、6月定例市議会で行われた市長の「所信表明」をご報告します。

<https://www.city.ichikawa.lg.jp/uploaded/attachment/51930.pdf>

【施策】(続き)

(前略)

人生 100 年時代、より豊かな人生を送るために、「いちかわ市民アカデミー講座」など生涯を通じて学び続けられる仕組みを整えるとともに、民間企業や「大学コンソーシアム市川」との産官学連携を深めることで、地域コミュニティを活性化させ、活気あふれるまちづくりへと繋げてまいります。

(中略)

また、信篤地域においては、公民連携(PPP)の手法を取り入れ、計画されている複合施設は、従来の公共施設に加え、地域の多様なニーズに応える新たな拠点として整備し、災害時には防災拠点としての機能も備えることができるように進めてまいります。

(中略)

市民活動団体が活躍しやすいよう公民館や「八幡市民交流館ニコット」「ぴあぱーく妙典 COCO」などを活用していただき、イベントや講座開催で、市民の交流を深める取り組みも充実させてまいります。

(中略)

昨年、「第 6 回全国国府サミット in 市川」が開催され、国府があったまち、市川の発信をすることができました。今後も本市に残された、多くの歴史・文化遺産を後世に継承してまいります。

また、「行徳の神輿文化と祭礼」を、市の無形民俗文化財に指定いたしましたが、無形民俗文化財の維持管理に係る補助金を交付するほか、担い手の発掘・育成に取り組んでまいります。かつて塩田として栄えた歴史を活かし、「行徳の塩」を現代に復活させることで、郷土への愛着を醸成したいと考えております。

(後略)

【むすび】

市川市を愛し、このまちで生きることを選んでいただいた皆さんが増え、今、人口 50 万人という節目を超えることができました。

しかし、こどもたちがお腹一杯食べ物を食べ、笑顔で暮らせるまちになっているのか！？
誰もが最善の医療や福祉サービスを受けられるまちになっているのか！？
義務教育に留まらず高等学校も含め、連続した学びの中でこども達が世界に羽ばたく可能性を秘めたまちになっているのか！？
市民の協力を得て、本気でごみの分別を行うまちになっているのか！？
と自分自身に問いかけているのです。

もしかすると、本市は緑や自然を残してはいるものの、東京に隣接するという地政学的優位性だけに依存して、あぐらをかいてきたまちだったのではないのでしょうか？

これからの市川市は、本当の意味で、誰一人取り残すことなく、自立し、自らの意志で歩み続けるまちへと変貌を遂げなければならないのではないのでしょうか！！

(中略)

本市が将来にわたり持続可能な発展を遂げていくため、そしてこどもから高齢者まで、誰一人取り残すことなく 50 万人すべての市民が心身ともに健康で、生きがいと安心を実感しながら暮らすことができるまちとなるため、私はこれからも、「市民目線」と「現場主義」を信条に、公正で透明性の高い市政運営を徹底し、精力的に活動を続けるとともに、市民の皆さんから信頼される行政を目指すことをお約束いたします。

リーダーとして 2 期目に託された責任の重みをしっかりと受け止め、両副市長と協力し、このまちを次のフェーズに進めていくため、全力で舵取りをしてまいります。

市民の皆さん、そして議員各位のご理解とご協力を心よりお願い申し上げ、私の所信表明といたします。